

# 付着生物調査結果（千葉港海岸習志野地区）

## 付着生物観察結果

調査年月日：平成17年3月27日10:40～11:30

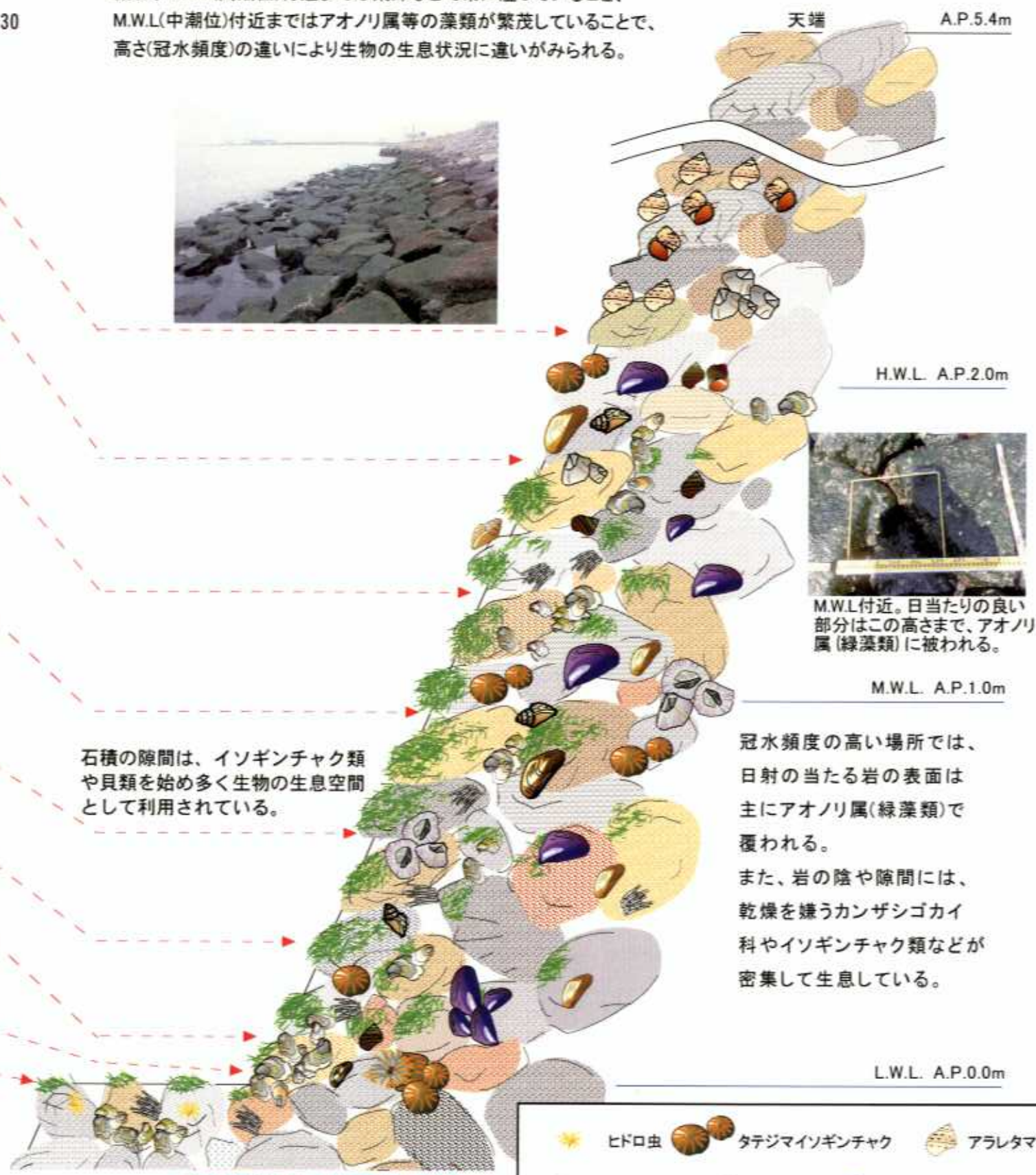
観察位置	植物 (種名+被度%)	動物 (種名+個体数)
A.P.2.0m (H.W.L)	—	アラレタマキビ(20)
	アオノリ属10% アマノリ属+	イワフジツボ(20) アラレタマキビ(18) マガキ(4)
A.P.1.0m (M.W.L)	アオノリ属80%	マガキ(30) タテジマイソギンチャク(4) コウロエンカワヒバリガイ+ ムラサキイガイ(2) イワフジツボ+ イボニシ(1) タマキビ(3)
	アオノリ属60%	マガキ(4) ムラサキイガイ(3) イボニシ(1) タテジマイソギンチャク(20) タテジマフジツボ+ コウロエンカワヒバリガイ+ カンザシゴカイ科+
A.P.0.0m (L.W.L)	アオノリ属50% セイヨウハバノリ+	ムラサキイガイ+ タテジマイソギンチャク(1) コウロエンカワヒバリガイ+ マガキ(3) カンザシゴカイ科+ イソギンチャク目(3) タテジマフジツボ+
	アオノリ属50%	コウロエンカワヒバリガイ+ マガキ+ タテジマフジツボ+ イソギンチャク目
A.P.0.0m (L.W.L)	アオノリ属80% セイヨウハバノリ+	コウロエンカワヒバリガイ+ ムラサキイガイ+ マガキ+
	アオノリ属60% セイヨウハバノリ+	コウロエンカワヒバリガイ+ ムラサキイガイ+ タテジマイソギンチャク(19) レイシガイ(1) マガキ+
	アオノリ属80% セイヨウハバノリ+	ヒドロ虫+ カンザシゴカイ科+

海草藻類凡例

アオノリ属(緑藻類) 

## 調査地全景

平成14年度竣工の石積護岸。護岸の勾配は1:3である。  
概ね、H.W.L.(高潮位)付近までは飛沫などで常に湿っていること、  
M.W.L.(中潮位)付近まではアオノリ属等の藻類が繁茂していることで、  
高さ(冠水頻度)の違いにより生物の生息状況に違いがみられる。



石積の隙間は、イソギンチャク類や貝類を始め多く生物の生息空間として利用されている。

冠水頻度の高い場所では、日射の当たる岩の表面は主にアオノリ属(緑藻類)で覆われる。  
また、岩の陰や隙間には、乾燥を嫌うカンザシゴカイ科やイソギンチャク類などが密集して生息している。



H.W.L.の上部(A.P.2.5m付近) 写真中央はイワフジツボ。この付近は本種の他にアラレタマキビなど、乾燥に強い生物しか生息しない。



M.W.L.付近。日当たりの良い部分はこの高さまで、アオノリ属(緑藻類)に覆われる。



石積の隙間(日陰の部分)。M.W.L.付近多毛類のカンザシゴカイ科が多数生息する。



石積の隙間(日陰の部分)。L.W.L.付近タテジマイソギンチャクやタテジマフジツボ等が多数生息する。



L.W.L.付近、日当たりの良い石の表面はアオノリ属(緑藻類)に覆われる。

ヒドロ虫    タテジマイソギンチャク    アラレタマキビ    タマキビ    イボニシ

ムラサキイガイ    マガキ    コウロエンカワヒバリガイ    イワフジツボ    タテジマフジツボ

注) この断面図は、作図の都合上、実際よりも横方向を縮めて(急傾斜になっています)。